

事業群評価調書(令和2年度実施)

基本戦略名	2 交流を支える地域を創出する	事業群主管所属	事業群①: 土木部都市政策課
施策名	(1) 時機を捉えた魅力あるまちなみの整備		事業群③: 地域振興部県庁舎跡地活用室
事業群名	① 新幹線開業に向けた駅周辺の整備	課(室)長名	事業群①: 植村 公彦 事業群③: 苑田 弘継
	③ 県庁舎跡地整備の推進		事業群関係課(室)

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文)						(取組項目)					
<p>①長崎港周辺の魅力ある都市景観の形成を進めるとともに、長崎駅周辺ではJR長崎本線の高架化やデザイン指針を基に駅舎などの施設・公共空間のデザイン調整に取り組み、併せて、諫早駅や新大村駅(仮称)周辺では交通広場整備による交通結節機能の向上などに取り組みます。</p> <p>③交流人口の拡大に寄与するとともに駅周辺エリアや松が枝エリアとまちなかをつなぐ回遊の拠点となることを目指し、地元長崎市と連携しながら、長崎市のみならず長崎県全体にとって、最も良い活用策となるよう取り組みます。</p>						<p>i) JR長崎本線連続立体交差事業及び新幹線駅周辺等における機能的な都市空間創出のための市街地開発事業等の促進(事業群①)</p> <p>ii) 重点的に整備する4つのエリアに掲げる施策の推進(事業群①)</p> <p>iii) 環長崎港地域における先導性のある都市デザインの推進(事業群①)</p> <p>iv) 県庁舎跡地に関する整備の推進(事業群③)</p>					
事業群	指標		基準年	H28	H29	H30	R元	R2	最終目標(年度)	<p>(進捗状況の分析)</p> <p>①九州新幹線西九州ルートの開業を見据えた新幹線駅周辺の整備が進められており、令和元年度における長崎駅、諫早駅及び新大村駅(仮称)周辺では主に建物等の移転補償を行った。長崎駅周辺では令和元年8月に交流拠点施設の工事に着手した。諫早駅周辺では平成30年8月に再開発ビルI棟1工区及び自由通路が供用を開始し、平成31年1月には残っていた再開発ビルの工事に着手したところであるため、各地区とも計画どおりに進んでいる。</p> <p>③県庁舎跡地活用については、令和元年6月に整備方針を策定し、9月より基本構想の策定に着手するとともに、10月からは予定していた埋蔵文化財調査を実施し、江戸時代の石垣や遺構等が確認され、専門家からさらに詳細な調査を実施してほしい等の意見が示された。これを受け、県として引き続き埋蔵文化財調査を実施するとの判断に至るとともに、長崎市から文化芸術ホールは現市庁舎跡地に整備したいとの考えが示されたことから、県において「広場」や「交流・おもてなしの空間」の整備を基本に、新たな機能を付加できるかや、先行的な賑わいづくりなど専門家等に意見を伺いながら基本構想の策定の中で活用策の検討をさらに進めている。</p>	
	①新幹線駅周辺整備の進捗状況[面積]		目標値①	4%	10%	11%	29%	44%	44% (R2)		
			実績値②	3% (H26)	4%	10%	14%	29%	進捗状況		
			達成率②/①	100%	100%	127%	100%	100%	順調		
	指標		基準年	H28	H29	H30	R元	R2	最終目標(年度)		
	③県庁舎跡地活用に関する整備の推進		目標値①	—	—	—	—	—	期間中の着手 (R2)		
		実績値②	—	—	—	—	—	進捗状況			
		達成率②/①	—	—	—	—	—	—			

2. 令和元年度取組実績(令和2年度新規・補正は参考記載)

事業番号	取組項目	事務事業名	事業期間	事業費(単位:千円)			事業対象	事業概要	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)			令和元年度事業の成果等	中核事業		
				H30実績	うち一般財源	人件費(参考)			H30目標	H30実績	達成率				
1	取組項目i	長崎駅周辺連続立体交差事業促進費	H19-	284,280	20,250	11,161	鉄道高架区間の道路利用者	デザイン検討会議を4回開催し、長崎駅舎・駅前広場等のデザイン決定に向けた課題を整理した。また、鉄道事業者と平成27年度に策定されたデザイン基本計画に基づいた駅舎デザインの具現化を図るための協議を実施した。	活動指標	鉄道事業者との協議回数(回)	10	10	100%	<p>●事業の成果</p> <p>・「長崎駅舎・駅前広場等デザイン基本計画」に基づいた様々な課題整理を鉄道事業者と行い、「海への方向性」を感じさせる空間について整理できた。</p> <p>●事業群の目標(指標達成)への寄与</p> <p>・様々な課題整理を行い、駅舎などの施設・公共空間のデザイン調整や長崎港周辺の魅力ある都市景観の形成に寄与した。</p>	○
				472,360	23,093	11,162					10	12	120%		
				2,095,312	38,722	11,165					8	8	100%		
		2,095,312	38,722	11,165	2	1	50%								
		都市政策課				根拠法令	—	成果指標	長崎駅舎・駅前広場等デザイン基本計画テーマの達成項目	1	1	100%			
										1	1	100%			

2		長崎駅周辺連続立体交差事業(公共)	H21-	6,973,025	72	—	鉄道高架区間の道路利用者	令和元年度は高架橋の上部工事及び駅舎建築、軌道、電気施設等を整備し在来線の高架化を行った。	活動指標	工事説明会の開催回数(回)	3	5	166%	●事業の成果 ・工事説明会の実施により住民の理解を得て、工事を実施した。R2.3.28には高架線路への切替が完了し、長崎駅・浦上駅の新駅舎が開業した。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与 ・JR長崎本線の高架化やデザイン調整に基づく駅舎などの建築が円滑に進み、長崎港周辺の魅力ある都市景観の形成に寄与した。	○			
				11,916,215	59	—					1	3	300%					
				8,546,685	100	—					4					72	74	102%
		都市政策課					根拠法令				89	85	95%					
											90							
3	取組項目 i	長崎駅周辺連続立体交差事業(単独)	H22-	122,894	5	3,986	鉄道高架区間の道路利用者	令和元年度は高架橋の上部工事及び駅舎建築、軌道、電気施設等を整備し在来線の高架化を行った。	活動指標	工事説明会の開催回数(回)	3	5	166%	●事業の成果 ・工事説明会の実施により住民の理解を得て、工事を実施した。R2.3.28には高架線路への切替が完了し、長崎駅・浦上駅の新駅舎が開業した。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与 ・JR長崎本線の高架化やデザイン調整に基づく駅舎などの建築が円滑に進み、長崎港周辺の魅力ある都市景観の形成に寄与した。	○			
				32,739	58	3,987					1	3	300%					
				99,752	193	3,988					4					72	74	102%
		都市政策課					根拠法令				89	85	95%					
											90							
4		都市計画事業県費補助金(区画整理・再開発)	—	238,448	348	0	長崎市、諫早市、長与町	新幹線駅(長崎駅、諫早駅)周辺などにおける土地区画整理事業(長崎駅、長与町高田南)及び市街地再開発事業(諫早駅)の整備に対し、事業費の補助を行い、都市基盤施設の整備を促進した。	活動指標	補助申請件数(件)	3	3	100%	●事業の成果 ・関係自治体と調整を行うことで、予定どおり補助申請が行われ、成果目標を達成することができた。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与 ・長崎駅においては、駅西側の造成が完了し、交流拠点施設の工事に着手した。また、長崎駅中央通り線及び西通り線の一部が供用を開始した。長与町高田南については、残事業の一括発注の契約が完了したことから、魅力的なまちなみや都市基盤の整備・促進に寄与した。	○			
				221,426	326	0					3					60	62	103%
				611,108	108	0					64	68	106%					
		住宅課					根拠法令				74							
5	取組項目 ii	都市再生推進事業	H21-	4,481	4,481	7,972	県、長崎市、民間事業者	長崎の都市再生に向けて、長崎都心地域における都市再生緊急整備地域の地域指定を目的に、都市再生委員会(長崎都心地域準備協議会)を開催し、検討を進めた。 また、長崎駅周辺エリアデザイン調整会議を通じ、エリア内で整備される民間施設4件のデザイン調整を行った。	活動指標	長崎駅周辺エリアデザイン調整会議の開催回数(回)	2	2	100%	●事業の成果 ・都市再生委員会を3回開催し、地域指定に向けて、指定すべきエリアの素案、まちづくりの新たな方向性となる地域整備方針(素案)を取り纏め、今年度の地域指定に向けて国と協議を進めることができた。 ・長崎駅周辺エリアのデザイン調整については各事業者と協議し、事業スケジュールに合うよう調整に努めたことで、成果指標目標を上回ることができた。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与 ・都市再生緊急整備地域の地域指定に向けた議論を通じて、長崎都心地域の地域整備方針(素案)を検討することで、都市開発の喚起を行うことができ、都市開発の推進に寄与した。 ・また、長崎駅周辺のデザイン調整(民間施設4件)を通じて周辺環境と調和の取れた都市空間の創出が可能となり、都市再生に向けた施策の推進に寄与した。	○			
				1,652	1,652	7,954					2	2	100%					
				3,654	3,654	7,976					2					6	8	133%
		都市政策課					根拠法令				10	12	120%					
											13							

6	取組項目 iii	環長崎港地域都市再生調整事業	H12-	6,213	6,213	5,979	県、長崎市、民間事業者	環長崎港地域アーバンデザイン専門家会議を開催し、長崎港周辺で整備される公共施設のデザイン検討を行った。	活動指標	アーバンデザイン会議等の開催回数(回)	13	8	61%	●事業の成果 ・郷土資料センターと県庁舎跡地活用等のデザイン調整を実施し、良好な都市デザインの形成に寄与した。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与 ・令和3年の開業に向けて、郷土資料センターのデザイン検討を適切に行うことができ、良好な都市デザインの形成に寄与した。	○
				7,799	7,799	6,363				13	15	115%			
				10,638	10,638	5,184				11					
		都市政策課	根拠法令	—	成果指標	アーバンデザイン会議等の検討を経て完成した事業数(件)	1	2	200%						
1	1				100%										
7	取組項目 iv	跡地活用検討経費	H21-	830	830	39,860	県、長崎市	令和元年6月に県庁舎整備基本方針を策定し、9月より具体の機能等を定める基本構想の策定に着手した。また10月からは予定していた埋蔵文化財調査を実施し、遺構等の状況把握及び専門家への意見聴取を実施した。 専門家からの意見等を踏まえ、長崎市が整備を予定していた文化芸術ホールが見直しとなり、県において「広場」や「交流・おもてなしの空間」を基本に、新たな機能を付加できるかや先行的な賑わいづくりなど、専門家等に意見聴取を行いながら、基本構想の策定の中でさらに活用策の検討を深めた。	活動指標	県議会等への整備進捗状況の報告回数(回)	4	4	100%	●事業の成果 ・県庁舎跡地整備基本構想策定支援業務委託に係る契約を締結し、基本構想の策定に着手した。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与 ・総合計画の目標である「期間中の着手」に向け、埋蔵文化財調査を進めながら基本構想の策定に着手し、文化芸術ホールが見直しとなる中、新たな機能を付加できるかや、先行的な賑わいづくりなどを含め活用策の検討を深めた。	○
30,832	30,832			39,770	4										
県庁舎跡地活用室	根拠法令			—	成果指標	県議会等への基本構想検討状況の報告回数(回)				—	—	—			
		2	2		100%										
230,712	230,712	39,875	4												
県庁舎跡地活用室	根拠法令	—	県庁舎跡地活用策にかかるとの策定	—	—	—									
				着手	着手	—									
				—	—	—									
				埋蔵文化財調査	着手	着手	—								
				完了											

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i	JR長崎本線連続立体交差事業及び新幹線駅周辺等における機能的な都市空間創出のための市街地開発事業等の促進(事業群①)
●実績の検証及び解決すべき課題	●課題解決に向けた方向性
長崎の玄関口にふさわしいデザインの基本的な考えを示した「長崎駅舎・駅前広場等デザイン基本計画」に基づき、在来線部のデザインは決定できた。今後の課題として新幹線部のデザインがまだ残っている。また、在来線を平成31年度末に高架化した。今後の課題として旧駅舎関連施設の撤去や踏切除却、側道整備、稲佐立体平面化などが残っている。	新幹線部のデザインについては引き続き鉄道事業者と協議・調整を行う。また、旧駅舎撤去や側道整備については関係機関との調整や近隣住民への説明会の開催を通して、円滑な工事の推進を図っていく。
ii	重点的に整備する4つのエリアに掲げる施策の推進(事業群①)
●実績の検証及び解決すべき課題	●課題解決に向けた方向性
民間都市開発を促進し都市としての魅力を向上させるため、都市再生緊急整備地域の指定に向けて令和元年度は準備協議会を新たに組織し、指定すべき地域(素案)と地域整備方針(素案)の取りまとめを行った。都市再生緊急整備地域の地域指定に向けて取り組みの継続が必要。 また、重点的に整備する4つのエリアにおける整備計画については、基本計画の変更に向けた準備を進めた。令和2年度については、民間の大型事業など社会情勢の変化をとらえて、新幹線開業後のまちづくりに向けた方向性の検討が必要。 長崎駅周辺エリアについては、長崎駅周辺エリアデザイン調整会議を通じて、長崎市交流拠点施設(MICE)本体、ホテルやNBC長崎放送新社屋などについて周辺環境と調和したデザイン調整を4件行うことができた。現在はJR九州長崎駅ビルなどの施設の調整中であるが、駅周辺環境に大きな影響を及ぼす大規模施設であるため継続的なデザイン調整が必要である。	都市再生緊急整備地域の地域指定については、今年度夏～秋にかけての地域指定を目標に、関係機関と協議を進めていく。 重点4エリアの整備計画については、新幹線開業後のまちづくりを見据えて、計画の見直しに向けて地元自治体と協議調整を進めていく。 長崎駅周辺エリアについては、今後も長崎駅周辺エリアでは様々な施設の整備が予定されているため、引き続きデザイン調整を行っていく。
iii	環長崎港地域における先導性のある都市デザインの推進(事業群①)
●実績の検証及び解決すべき課題	●課題解決に向けた方向性
長崎港周辺では、水辺の森公園や松が枝国際観光船埠頭といった港の景観に調和した施設が完成しており、新県庁舎や新県警本部庁舎についても計画・設計段階から施工段階に至るまで詳細なデザイン検討を行い、質の高い施設の整備に取り組んだ。今後も魅力ある都市景観の形成に向け、県庁舎跡地活用、県立図書館郷土資料センター、新たに新規事業化がなされた松が枝国際観光船ふ頭の2バースなど、長崎港周辺で整備される施設についてデザイン検討を行っていく必要がある。	松が枝国際観光船ふ頭の2バースが概ね7年程度、背後地の整備も含めれば10年程度の整備期間が必要となる。システムを将来に亘り機能させるため、アーバンデザイン専門家会議において、若手委員の育成を進めていく。

iv 県庁舎跡地に関する整備の推進(事業群③)

●実績の検証及び解決すべき課題

令和元年度は、県庁舎跡地活用の3つの機能のうち、長崎市が整備を予定していた文化芸術ホールが見直しになったことから、今後の基本構想の策定の中で「広場」、「交流・おもてなしの空間」の整備を基本に、新たな機能を付加できるか等についてさらに検討を深めていく必要がある。

●課題解決に向けた方向性

基本構想の策定の中で、引き続き専門家等にご意見をいただきながら議論を深め、今後の埋蔵文化財調査の結果を踏まえつつ、県議会をはじめ関係者の皆様に幅広くご意見を伺いながら、歴史を活かし賑わいの創出につながるような活用策の整理を進める。

4. 令和2年度見直し内容及び令和3年度実施に向けた方向性

事業番号	取組項目	事務事業名 所管課(室)名	令和2年度事業の実施にあたり見直した内容 (令和2年度の新たな取組は「R2新規」等と記載、見直しがない場合は「—」と記載)	令和3年度事業の実施に向けた方向性		
				事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
1	取組項目 i	長崎駅周辺連続立体交差事業促進費 都市政策課	協議の質の向上や協議回数を増やすことで目標の達成を図る。	—	JR長崎本線連続立体交差事業は、国際観光文化都市長崎の玄関口としてふさわしいまちづくりのために、引き続き「長崎駅舎・駅前広場等デザイン基本計画」に基づいて駅周辺のデザインを検討していく必要がある。協議の質を上げるとともに、必要に応じ協議回数を増やし、目標の達成を図っていく。	現状維持
3		長崎駅周辺連続立体交差事業(単独) 都市政策課	—	—	JR長崎本線連続立体交差事業は、国際観光文化都市長崎の玄関口としてふさわしいまちづくりのために、九州新幹線西九州ルートや長崎市の事業である長崎駅周辺土地区画整理事業と調整を図りながら一体となって推進する必要がある。なお、全体事業費が令和元年度中に増となったため事業費ベースでの事業進捗率が目標に届いていないが、事業の進捗自体は予定通りである。	現状維持
4		都市計画事業県費補助金(区画整理・再開発) 住宅課	—	—	新幹線駅(長崎駅、諫早駅)周辺などにおける土地区画整理事業(長崎駅、長与町高田南)及び市街地再開発事業(諫早駅)については、新幹線開業に合わせ、引き続き魅力的なまちなみの形成や都市基盤の整備を促進する必要がある。	現状維持
5	取組項目 ii	都市再生推進事業 都市政策課	緊急整備地域の指定に向けた取り組みを継続すると共に、新幹線開業後も見据えた整備計画の変更を行っていく。	⑨	緊急整備地域の地域指定を受け民間都市開発の喚起を進めると共に、新幹線開業後も見据えた整備計画の変更を進め、長崎の魅力を高めるまちづくりを継続させる。また、長崎駅周辺エリアデザイン調整会議については、令和4年開業予定の九州新幹線西九州ルートを見据えたまちづくりに向けて、周辺開発のさらなる活発化に対応するため、今後も継続した取り組みが必要である。	改善
6	取組項目 iii	環長崎港地域都市再生調整事業 都市政策課	システムを将来に亘り機能させるため、アーバンデザイン専門家会議において、若手委員の育成を進めていく。	—	アーバンデザイン専門家会議における若手委員の育成を進めながら、松が枝国際観光船埠頭の2パース化や県庁舎跡地など長崎港周辺で整備される施設についてデザイン検討を行い、魅力的な都市景観の形成を行って行く。	現状維持
7	取組項目 iv	跡地活用検討経費 県庁舎跡地活用室	文化芸術ホールが見直しとなったことから、新たな機能を付加できるかや先行的な賑わいづくり等について、専門家等の意見を踏まえ、基本構想の策定の中でさらに検討を深めていく。	—	令和2年度の埋蔵文化財調査の結果や、県議会をはじめ専門家や関係者の皆様からの幅広いご意見を踏まえ、整備する機能の配置、規模等の整理を行うなど、基本構想の策定を進めていく。	現状維持

注:「2. 令和元年度取組実績」に記載している事業のうち、令和元年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができているか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点